

# 潮音寺だより

〈ホームページ〉 <http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

第 248 号  
平成 16 年 6 月  
電話 052-671-4831  
ファックス 052-671-4856  
E-Mail:choonji@aichi.email.ne.jp

〒456-  
0034 名古屋市熱田区伝馬 1 - 10-11

道 心 恒 不 退

どう

しん

こう

ふ

たい

【出典】 善導大師  
『往生礼讃』 三宝帰敬

迷うことなく  
ほとけの道を  
歩みゆけ

「求めよ」

急れば  
チャンスが  
逃げてゆく

「極めよ」

思慮のない  
痴癡は  
友を遠ざか

「落着いて」

欲望といつ  
誘惑は  
手招きし

「負ひなごで」



鶴田偉子作

# 創作童話 たらの首輪

「お母さん。たらちゃんが、たらちゃんが。」

「ああ、ちのうでじのじやない。」「歩けないみたい。痛いんだよ。」

きつて苦しいんだよ。変だよ。絶対に変だよ。」

「バスターを壊つてしまい。」

「どうするの?」「大もじ病院」連れて行ぐの。」

ぼくは、タオルにくぬまれ、車に乗せられた。以前のぼくだったから、だれよりも真っ先に、車に飛び乗つたものだが、今は、それができない。体全体がさび付いてしまったようで、あしを動かさうにも動かせないのだ。

それから、どれくらい時間がたつたのか、病院に着いてからぼくは、最悪だった。みんなして唾を吐つかられ、口をむりやり開けられたり、鍼を何本も刺されたり、わな分からぬ痛さと苦しさで、体がぱりぱりに砕けるかと思つたほどだった。

「検査の結果は、……。」

「跟くないです。」

「つむ、つむでしょ。だって、少し関節の具合が悪いだけだっていつたもの。藥たって毎日飲ませていたの!」

「うう、そんなはずはないわよ。」

「しかし、分かつてじねじねは、体中」ガンがまわつてじねじねは、「じねじね。今生きてるのにしがない思議なほどの、状態は悪じです。」

お嬢さんとお母さんが、ぼくのために走ってくれた。あの時の泣き声は、忘れないのができない。つらかったけれど、うれしかった。いく粒も、いく粒もぼくの顔に、体に温かい涙が落ちて伝わった。

でも、背中にチクシとした痛みのあと、その温かさは感じられないなり、あれほど苦しかったこれまでの痛みが、うそのように消えしゆくのが分かった。そして、みんなの涼くよくに体が軽くなり、ぼくの体は、したじに、ぼくの体でなくなつてこつた。

「お母さん、たのむやんが。」

「……」

「たのむやんが…。」

「たのむやんが…。」

「たのむやんが…。」

「お母さん、お母さんを責めないで欲しきんだ。」  
その夜、ぼくを抱き抱かしたのを記憶にござりてお母さんが枕をぬりして泣いていた。ぼくは、その話を伝う涙を、何度も何度もぬた。そして、それが、その口からぼくの口 mondōになつた。

まだぼくの送迎、タオルにベニガネ、あるいは寝ぐらしに抱かれていつたが、じのめつに家に帰ったか、思ひ出かじがでもな。

それは突然だつた。その夜も、お母さんの枕元で寝てこねるぼくのなまえを呼ばれた。とても優しい声だつた。そして、呼ばれただの方の回りが、金色にひかり輝いていた。ぼくは、もうじれりじれになつて感動した。

「お母さん、大きな病院に連れて行つてこたどり…。それに、それ…。」

「ついこのは、あなただけじゃなじのよ。」  
「たひー、たつー…。」

「八つ八の中、やつぱり、たひ  
ちやんの道輪だよ…。」  
「たのむやん、たのむやん、あ  
んめい、たのむ、じゅせつかの道輪し  
てこてはだのよ。」

「お母さんたつて、毎日、お腹とお水をかしてこねじやな。」  
「おお、道輪わなこー。」

「お母さん、わたしの道輪を知らない?」

「道輪れたたじな。」

「わづこおやんと枕元に置いて寝たわ。」

「わしがたのめくの八つの中

ぼくがひらかひた。ぼくは、しつけをうけをうけの強られたからつ

〔3〕 いわ

仏教語の「幻」とは何もないとか、虚無であるといつて意味とはちょっと違います。

空の思想には、言葉

や思想は事実をありのままに示し得ないといふ者えがあります。実は時間的な世界であつて、現象は絶えず変化してゐるのですが、言葉による表現は静止的です。たとえば、「この花は白い」といふますが、その花の白さはいつまでも同じまらず、色あせてこきます。したがって言葉で表現した直後に、その言葉は死んだものになってしまい、そうとうされるのです。

流れゆく世界を流れのままに、その世界を観する自分自身が、静

### 住職通信

分ければ減る  
これは物だ  
分けても減らぬ  
これは心だ



ます。

空の思想は、

大乗仏教興起のころ、『中論』を著した龍樹に、色即是空、空即是色』と云う語句によつて大成されました。まだ『般若心經』の中の「色は空なり」といつましたが、それは大変奇妙です。『仏教百科』

▼表紙



檀家の大森正子様より、妹さんがお作りになつたパンフレットを頂戴しました。パンフレットというのは、小麦粉や樹脂

止的に見る限りに陥らないようにして、固定的実体がない無常の世

界を觀かね、いじて「一切皆空」、空の立場があり

の粘土で花や葉の形を作り、絵の具で彩色したものなんだそうです。本当に、本物の花と思はしがえのせいで

### ▼感謝

先日号で、彩色灯明の「寄付のお願いをいたしましたが、早速に、青木秀郎様より頂戴いたしました。また、他にも、複数ご申し出を頂いています。感謝、感謝であります。百万円ほどかかりますので、募集継続中です。

### ▼たらの首輪

先頃、インターネットを通じて、愛犬を「くれされた方から、心の相談を受けました。当方に犬がいますので、犬になつたつもりで、童話を作つてみました。

▼鮮やかに赤き幸せ  
サクラランボ 沐魚